

岡山県 J R 在来線利用促進検討協議会 第 1 回全体会
会議要旨

- 1 日 時 令和 4 年 8 月 3 1 日（水） 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
- 2 場 所 ホテルグランヴィア岡山「パール」 ※W e b 併用
- 3 出席者 岡山県副知事 小谷 敦
岡山県県民生活部県民生活交通課長
各県民局地域政策部地域づくり推進課長
各市町村交通政策担当課長
J R 西日本岡山支社企画課長
岡山県市長会
岡山県町村会

4 次 第

- (1) 開会あいさつ
- (2) オリエンテーション
- (3) 岡山県内における J R 在来線の利用状況
- (4) 鉄道の利用促進に向けた J R の取組
- (5) 県・市町村における取組状況
- (6) 意見交換
- (7) 今後の進め方について
- (8) その他

5 意見交換における主な発言（要旨）

○津山市

- ・ 津山市の取組として、津山駅北口前広場の整備や、駅舎のバリアフリー化を実施し、利便性の向上などを図ってきた。
- ・ また、独自の取り組みとして、市内の鉄道利用者を対象に、駅周辺の駐車場料金を助成する事業を実施している。
- ・ 現在、策定作業を進めている次期地域公共交通計画においては、鉄道と二次交通とのスムーズな接続という観点からも検討していきたい。
- ・ 津山市は、因美線、姫新線、津山線の 3 路線が乗り入れており、この 3 路線の利用促進について、本協議会の新たな枠組みも活用しながら、議論していきたい。

○真庭市

- ・ 真庭市の取組として、昨年度から、駅舎の利便性の向上を図るため、トイレの改修工事を実施しており、今年度で、市内 7 駅全ての改修が完了した。
- ・ 姫新線は市民生活を支える重要なインフラであり、地域活性化につながる市民共有の財産である。地域の様々な分野の方の意見を聞きながら、姫新線をどのように活用する

ことができるのか検討していきたい。

- ・ 引き続き、姫新線の存続に向けて、市民とも危機感を持って取組を進め、1人でも多くの利用客を獲得していきたいと考えている。

○勝央町

- ・ 勝央町の取組として、勝間田駅の新駅舎の建築や、駐車場と駐輪場の再整備を実施した。また、駅舎内にWi-Fiを設置するなど、駅舎の利用環境はさらに向上しており、地域の方々からは好評をいただいている。
- ・ 勝間田駅は、地元の高校生がプランターの設置をしたり、地域住民の方が待合室に花を飾るなど、地域に密着した駅となっており、このような取組を大切にしながら、利用促進を図っていきたいと考えている。
- ・ 今年度、公共交通に関する調査分析業務を実施することとしており、その調査結果を踏まえ、今後の利用促進策を検討していきたい。

○新見市

- ・ 昨年からは、芸備線の利用促進に取り組んでおり、経済団体、観光団体、JR、岡山県、新見市で官民連携の協議会を立ち上げ、フォトコンテストや駅カードの配布事業などを実施した。
- ・ また、庄原市、奥出雲町、新見市で連携し、利用促進の機運醸成や地域間交流の推進等を目的に、県境鉄道サミットを開催し、意見交換などを実施した。
- ・ 市の取組としては、鉄道駅とのアクセスを良くするため、乗合タクシーを導入するなど、二次交通の改善を図っているところである。
- ・ 引き続き、様々な関係団体と連携して利用促進に取り組みたい。

○岡山県

- ・ 県でも、新見市等と連携し芸備線の利用促進に取り組んできたが、ポイントとしては、地元の方に使っていただくことが大切であり、どうすれば使ってもらえるのかということであった。
- ・ 地元経済界や地域住民を巻き込んだ取組を進めていくことや、鉄道につながる二次交通をどのように活性化させていくのかが重要であると考えている。
- ・ 新見市から、関係自治体と連携して取組を進めたと説明があったが、本協議会においても、会員同士の横のつながりを生かし、単独の取組だけではなく、連携した面的な利用促進に取り組めないかと考えている。

6 合意事項

- ・ 第2回全体会は、令和5年1月頃に開催する方向で調整する。
- ・ 今年度は、赤穂線及び姫新線のワーキングチームを設置する。第1回会合は、9月下旬から10月頃に開催する方向で調整する。

以 上